第24回　MQI活動発表大会終了

２０１９年
MQI統一主題

役割認識
～なすべき事を実行する～

みみより MQI
発行（公財）練馬総合病院MQI推進委員会
〒176-8530　練馬区旭丘1-24-1
TEL03-5988-2200（代）

第24回MQI活動発表大会を終えて

理事長・院長　　飯田　修平

MQI24年目は、「役割認識 ―なすべき事を実行する―」を主題にしました。役割となすべき事を理解して活動したチームがどれだけあったでしょうか。統一主題とは、活動の切り口であり、具体的な活動テーマは自由です。毎年、活動テーマの選定に苦労するチームが多いですが、理解できません。現場で困っていること、問題点は探さなくてもいくらでもあります。自分たちが、また、患者さんが困っていて、解決したいことを選定してください。

教育研修では、宇野千代の『行動することが生きることである』やZARDの『カラッといこう！』を例に、主体的に行動することを求めました。研修課題とその成果をMQI活動に活かしてください。MQI活動は、継続的質向上にむけて、それぞれが役割を認識し、なすべき事を実行することです。推進委員・チームメンバーの更なる努力を期待します。

第24回MQI活動発表大会を終えて

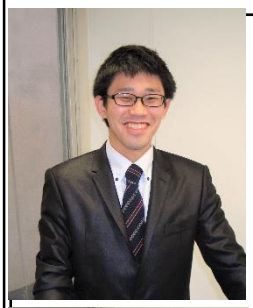
MQI推進委員会委員長　　柳川　達生

第24回医療の質向上（MQI）活動は、令和元年12月7日当院地下講堂にて開催しました。31名の外部機関の方々と、内部124名が参加しました。今回は参加6チームと情報発信プロジェクトチーム計七演題の発表となりました。外部参加者からの御質問は我々とは異なった視点が多く、大変参考になりました。発表終了後、美原記念病院　院長　美原盤先生より「臨床指標を活用した医療の質向上への取り組み」の特別講演をして頂きました。その後、審査発表となりました。最優秀賞は薬剤科・内科チーム、優秀賞は事務部チーム、努力賞は放射線科チーム、院長賞は情報発信プロジェクトチーム、特別賞はチームからの依頼に応え多大な貢献をした質保証室、企画情報推進室の2名の職員に贈られました。

発表大会終了後、多くの方々に懇親会に御参加いただきました。御来賓の方々より発表大会の感想と発表各チームよりひと言ずつ感想を述べてもらいました。懇親を深め意見交換ができ有意義な懇親会となりました。

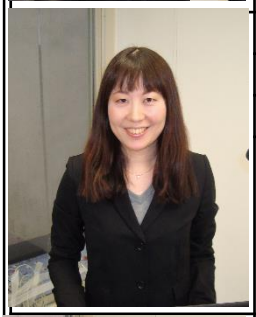
昨年度の統一主題は「役割認識ーなすべきことを実行する-」でした。病院が機能するためには各職種が役割を果たさなければなりません。しっかりと責任感をもち業務を遂行する必要があります。来年度はMQI活動25年の区切りとなります。今年の活動を基盤として、次の段階へ進んでまいります。

★　各チームからのコメント　★



活動主体部署	リハビリテーション科　オレンジデイズ
テーマ	心大血管疾患患者のリハビリテーションを見直し多職種の関わりを標準化する
チームリーダー	新田　裕己

今後は心不全リハビリテーションパスを始めとして、多職種との連携を更に深めることで患者さんにより良い医療を提供し続けられるよう、活動を継続していきたいと思っています。これからもよろしくお願いします。



活動主体部署	薬剤科・内科　高血糖バスターズ
テーマ	多職種で関わる高血糖緊急治療対応の標準化
チームリーダー	日下部　華子

今回の活動では多職種で協力し、高血糖緊急症治療セットを作成し、運用しました。
また、糖尿病に関連する看護師の記録の見直しにも取り組みました。
今後も継続して糖尿病治療に貢献していきたいと考えています。

活動主体部署	放射線科　ラジエーションハウス
テーマ	造影CT検査前の安全な工程の確立
チームリーダー	安上　尚吾

今回「造影CT検査前の安全な工程の確立」をテーマに活動しました。
対策システムをより使いやすく改訂して、患者さんにより良い医療を提供できるように引き続き日々精進しますので、皆様の協力をよろしくお願い致します。

活動主体部署	看護部　Hey！Say！！
テーマ	安全に与薬するための仕組みを再構築する
チームリーダー	木名瀬　絵里　　発表者　丸山　沙耶

今回の活動では、看護師管理の与薬業務フローを再構築し、看護師の行動変容に繋がりました。今後は、新たに作成した、時間指定薬の業務フローの安全性を評価し、必要時、追加・修正をしていくことで、インシデントの減少につながるよう取り組んでいきたいと思います。

活動主体部署	内視鏡センター　アップル
テーマ	練馬区胃がん検診内視鏡検査の受け入れ体制を整える
チームリーダー	森下　佳子

今回の活動で、練馬区胃がん検診受け入れ体制を整備し、健康医学センターと外来、内視鏡センターが連携して受診者の対応を行えるようになりました。今後も、新たに問題が生じた場合は早急に対応し、安全・確実な胃がん検診の実施に努めてまいりたいと思います。

活動主体部署	事務部　どうにかし隊
テーマ	機器・備品管理の仕組みを見直す
チームリーダー	飯尾　香織

各部署、お忙しい中、調査やアンケートにご協力頂き、本当にありがとうございました。
機器・備品管理システムや管理マニュアルを、各部署がさらに使いやすいように改訂していきますので、ご意見ご要望お待ちしております。引き続きよろしくお願いいたします。

活動主体部署	情報発信プロジェクトチーム
テーマ	当院の魅力を地域へ情報発信する
チームリーダー	小林　陽子

今回の活動は、病院を元気にするためのスタートラインに立ったところです。これからどうなるか、よくも悪くも皆さんのご協力があっての事と思います。長い目で見て、良くなった良かった、とみんなで言い合えるよう継続していきます。

長時間にわたる審査を有難うございました

★審査員★

【審査員長】
柳川達生
MQI
推進委員会
委員長

【審査員】
金内幸子
MQI
推進委員会
副委員長

【審査員】
栗原直人
副院長

【審査員】
佐藤松子
看護部長

【審査員】
阿部哲晴
事務次長

【審査員】
湯本公庸様
特定非営利活動法人
安全工学会
事務局長

【審査員】
美原　盤様
公益財団法人
脳血管研究所
附属美原記念病院院長

【審査員】
関　利一様
株式会社日立製作所
ひたちなか総合病院
TQM統括室経営
支援センター長

【審査員】
槙　孝悦様
株式会社
槙コンサルトオフィス
代表取締役

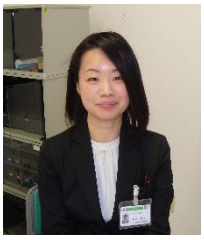
各賞受賞チーム

努力賞【放射線科】　優秀賞【事務部 】　院長賞【情報発信プロジェクト】　最優秀賞【薬剤科・内科】　院長賞【システム構築　島田・堀氏】

発表大会　お疲れ様でした

座長

第1部



第2部

総合司会

時計係

☆授賞式☆彡

会場風景

☆彡発表者☆彡

☆MQI推進委員☆　活動・発表大会を支えました！

☆質疑応答☆

懇親会風景

特別講演「臨床指標を活用した医療の質向上への取り組み」
公益財団法人脳血管研究所　附属美原記念病院　院長　美原　盤様

美原記念病院の理念は「脳・神経疾患の急性期から在宅まで一貫した医療介護の提供」で平成11年より28年までの間に急性期病棟、療養病棟、高度急性期病床、地域包括ケア病棟等の病棟機能を展開してきました。

【診療録に基づくデータの活用支援】

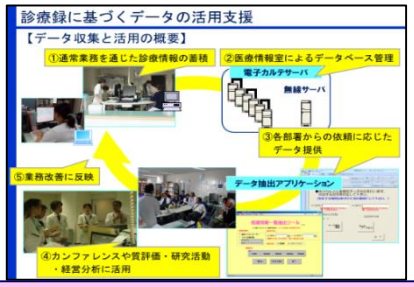
データに基づく臨床･経営分析を迅速に行うことを目的に情報管理部門の充実をはかり、看護師3名、診療情報管理士5名、事務職員5名、システム管理者2名計15名配置しています。部署からの要望に応じたデータを提供することで、カンファレンス、質評価、研究活動などに活用しています。

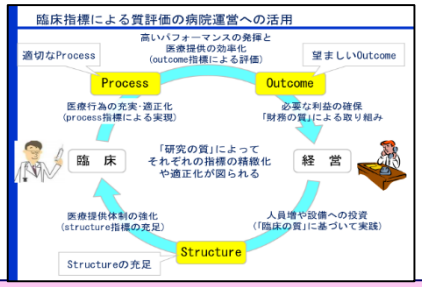
【臨床指標による質評価の病院運営への活用】

DPC制度に基づいた全国共通の臨床指標の公開のみならず、独自の臨床指標による質評価を行い病院運営に活用しています。現在の実績が過去に比べ向上しているか、将来の在るべき姿に対し現状は適切か、を検討しています。現場に指標を考えるよう指示し、指標の意義を問いかけるようにしています。

【美原記念病院での臨床指標】

美原記念病院で活用している臨床指標の一部をご紹介いただき、また実例も詳細にお話しいただきました。現場からの臨床指標を病院運営に生かしていくことの重要性を実感させられた講演でした。当院にも多いに参考となりました。





美原記念病院における主な臨床指標③

管理部（担当部署）	区分	質の評価指標
画像診断科	アウトカム	地域医療への貢献、質の高い画像診断検査の提供　他院依頼MRI検査の増加 指標：他院依頼MRI検査数
画像診断科	プロセス	診療放射線技師の知識・技術の向上 指標：科内勉強会の開催（各自1回/年・7回/年） 学会発表および講演レベルの発表回数
検査科	アウトカム	救急エコーのニーズに応える　救急外来エコーの対応件数増加 指標：救急外来エコーの対応件数
検査科	プロセス	質の高い検査を提供するための専門的知識・技術の向上　専門分野に関する研修・勉強会等への参加の べ人数の増加 指標：専門分野に関する研修・勉強会等への参加のべ人数
検査科 ブレインバンク	アウトカム	脳内病理解剖数の増加 指標：病理解剖実施率
栄養科	アウトカム	患者に適した食事提供の継続 指標：食事全体の満足度95%
栄養科	プロセス	経管栄養から経口摂取への移行数の増加（急性期経管栄養者が回復期でどの程度経口移行できたか、経口移行へのシステムの確立） 指標：経口移行率
薬剤部	プロセス	回リハ病棟の服薬支援対象患者の選定と介入方法の検討 指標：対象者選定・介入方法検討の進捗状況

第24回ＭＱＩ発表大会に関する総論的感想
株式会社　槙コンサルタントオフィス　代表取締役　槙　孝悦 様

超高齢化社会に突入した日本の医療システムは、このままでは持たないと言われて久しいのですが、いよいよ本格的に、財政問題をはじめ、さまざまな形で医療現場に影響する施策が取り上げられるようになってきました。医師の働き方改革を進めるためのタスク･シフト／シェアの問題、地域医療構想による424病院の問題等々により、今までと同じ働き方では立ちいかなくなることは明白であり、質の向上と同時に効率化が求められます。

言わば「MQIの本領発揮の時代」が到来したと位置づけられますが、今回の第24回MQI発表大会に参加した私は、審査員であるにも関わらず、MQI活動の成果で電子カルテシステムに付加価値を付けたテンプレートやシステム構築したことに只々感心し、「この仕組みは横展開できるのでは？」、「この仕組みをブラッシュアップすれば売れるのではないか？」というビジネス的な発想を膨らませてしまいました。

総論的には、受賞されたチームはもちろんのこと、それぞれの発表内容は、甲乙つけがたい内容であったと思います。活動メンバーが次々と変わっていく中で、これだけの水準を維持するためには推進員の役割が重要になりますが、「役割認識－なすべきことを実行する－」は、活動メンバーだけではなく推進員にも問われた大会だったのではないかと思います。また、中堅幹部は、次世代を担う人材を育てることが大きな役割になりますが、「練総愛」を育てるために、今までとは流れを変えるぞという意気込みを感じました。

なすべきことを実行するには、役割認識が重要ですが、個々の職員の認識にGAPがあることを前提として、そのGAPにどう対応するかという方法論の位置づけにより、取組テーマと成果に違いが出ていたと感じました。各部署の組織文化にも影響されることでしょうが、他部署との関りの中で「役割認識」のあり方を変化させていく必要があると思います。

審査員という立場を離れた場合、「機器・備品管理の仕組みを見直す」及び「当院の魅力を情報発信する」には特に興味を惹かれました。情報発信プロジェクトの次回発表を楽しみにしております。

来年の第25回MQI発表大会は、四半世紀の伝統を積み重ねる節目になりますが、益々のご健闘を祈願しております。

審査員より各チームへ（一部抜粋）～良い点，改善点・ご意見など～

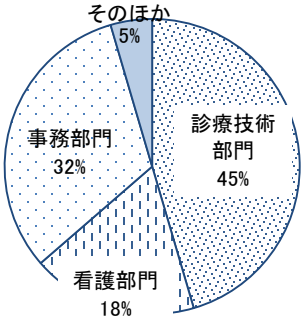
	良かった点	今後の課題と思われる点・ご意見・ご感想　など
①リハビリテーション科 （心大血管疾患患者のリハビリテーションを見直し、多職種で関わり方を標準化する）	・脳卒中・循環器病対策基本法が施行され、心臓リハが注目されている現在、時期を捉えた取り組みである。 ・多職種が協力し、心不全リハビリパス化にしたことは標準化につながり評価できる。 ・これまで実施できていなかった患者さんにも、より適切な医療を患者さんに提供できるようになったことは素晴らしい。 ・回診を利用した医師への情報提供は効果的	・対策の実施は継続可能か？理学療法士の継続努力に依存した対策である ・結果として負荷は減っているか吟味する必要あり ・心大血管リハに対する深堀ができなかったのではないか ・今後の課題とした病名の件は、電話だけでなく直接回診時を利用して依頼するなど、医師が登録できることを目指してください
②薬剤科・内科 （多職種で関わる高血糖緊急治療対応の標準化）	・高血糖緊急症は日常診療において経験することは稀だが、だからこそ標準化された対応策を確立しておくことが重要で今回の取り組みを評価したい。 ・入念な現状把握を実行した。チーム医療推進となった。 ・問題一つずつに対して、対策を立てていたのは、わかり易かった ・目的が明確で、活動のストーリーも明快で、統合セット、観察項目セットなどのシステムを開発し仕組みで動く組織のあり方はこういうものかと感心した。	・対応策自体が確立されていたとしても、実際の場面で活用されなくては意味がない。いざという時に対応策が活用されるように、スタッフ全員に周知させることが課題。 ・内容が見直されないまま陳腐化してしまうリスクもある。内容を定期的にチェックする仕組みが必要。 ・緊急な場合は夜間休日が多い。夜間、外勤医師へ広げられるか？ ・アウトカム指標の検討に期待したい
③放射線科 （造影CT検査前の安全な工程の確立）	・他と異なり、未然防止のレベルに取り組んだ ・有害事象が発生していない現状で、このような対応策を検討していることを評価。 ・FMEA（故障モード影響解析）の手法を学んだことは科にとって大きな財産 ・電子カルテシステムを利用したチェック機能は、効率的、洗練されたものと感じられ、当院でもこの仕組みを取り入れたい。	・このシステムにアレルギー等、もれなく入力するようにしないと将来役にたたないものになってしまう ・外来も含めた検査をオーダーする医師全員に周知する歯止めが不十分ではないか ・今迄もチェック表などを作成してきた経緯があったと思うので、形骸化しないようにオリエンテーションの方法を考えておくことが課題 ・対策のチェック機能は、造影剤使用（アンギオ・血管内手術など）、薬剤投与（DOACの過剰投与のチェック）にも応用できるのではないか
④看護部 （安全に与薬するための仕組みを構築する）	・多くの病院ではインシデント・アクシデント報告を収集しているが、収集するだけで終わっているケースは少なくない。報告内容を分析し、対応策を講じている点は評価できる。 ・目の前にある問題に真摯に向き合い、着実に成果を上げた活動である。 ・インシデントのデーターやRCAを活用して対策につなげた ・今まで曖昧であった「時間管理薬」の与薬手順を作成し、標準化した	・今後も病棟、薬剤科、安全管理部門が連携して、内服薬インシデントをRCA分析して、対策を実行する体制を継続しましょう。 ・手順を本来の姿に戻しただけでも、インシデントが発生しているので、部署流の対策に流されないように歯止めをしっかりお願いします。 ・業務フローが守られていなかったことのRCAは？良い仕組みを構築しても不遵守の恐れがある。これらの背景を十分認識しなければ、モグラたたき改善になってしまう。
⑤内視鏡センター （練馬区胃がん検診内視鏡検査の受け入れ体制を整える）	・受診者が大幅に増加したことは、高く評価される。 ・日常の内視鏡検査とは運用の異なる、胃癌検診内視鏡の様々な情報を収集して分析した。 ・電話受付する健康医学センターと協力し、連携した活動であった。 ・業務フロー図で現状と対策を説明したところは分かり易かった。 ・練馬区胃がん検診の実施要件が詳細に決められている内容を、当院で使いやすいように業務フローに落とし込んだ	・始まったばかりの検診で、受診者増加による問題が生じたりするので、随時、仕組みの見直しが必要。 ・プレゼンテーションの仕方として、この取り組みのアウトカム（受診者数の増加、クレームの減少など）もっとアピールしても良い。 ・現状の問い合わせ内容をそのまま説明していたが、まとめてグラフにするなどデータの見せ方に工夫が出来たら、プレゼンがすっきりしたのではないか。
⑥事務部 （機器・備品管理の仕組みを見直す）	・分っていてもなかなか取り組めない、やっていそうでやってない問題を正面から取り上げた。 ・取り組みの対象となる機器・備品を明確にしたことが、よい結果に結びついた ・短期間での調査、QRコードの採用、システム開発など、MQIの素地を活用した総合力が発揮された活動 ・当院の状況を再確認します。とても参考になりました。	・院内全てを把握して管理できるように、継続して下さい。 ・今回の取り組みにより、機器・備品管理に関する業務量は減ったのだろうか。コスト削減に結びついたのであろうか。経営的（経済的）な視点からの分析も期待したい。 ・貼付したQRコードの維持管理が課題 ・結果の表し方に工夫が必要。データで示していない部分があった。 ・事務部内の活動を病院として横展開して下さい。
⑦情報発信プロジェクトチーム （当院の魅力を地域へ情報発信する）	・夏休み医療体験は大成功 ・有志懇談会で討論したことがプロジェクトチーム活動に繋がり、新しい方向性を示せたこと。 ・有志懇談会という会が自然発生的に（？）存在するところに練総の強さがある。 ・地域への情報発信は重要です。子供たちへの教育は、参考にしたい。 ・「練総愛」というチーム名に対するこだわりに共感を覚える。	・まとめに述べられているように確かにスタートにすぎない。また、決して中断させてはいけない活動である。 ・「当院で何か提案があるとそれに協力する仲間がいて実現していくことができる」ので、これからも、このような有志の輪が拡がってもらいたい。 ・患者さんの声に対する改善事例の報告を関係部署に引き継ぐことが重要

MQI発表大会アンケート集計結果　（回答数39名）

部署・職種別参加率

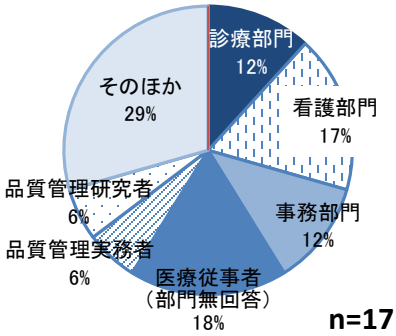
部署・職種	所属人数	参加者	参加率
常勤医	40	6	15%
研修医	9	0	0%
手術室	24	4	17%
外来	38	6	16%
2階	40	2	5%
3階	28	11	39%
4階	31	7	23%
5階	33	6	18%
薬剤科	18	16	89%
放射線科	15	13	87%
検査科	15	8	53%
リハビリテーション科	10	10	100%
栄養科	3	3	100%
臨床工学室	3	0	0%
内視鏡センター	3	3	100%
健康医学センター	8	2	25%
医事課	29	6	21%
事務部	15	5	33%
直轄部門	18	17	94%

あなたの所属は？（職員）



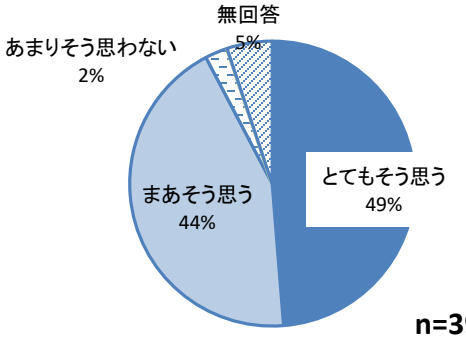
n=22

あなたの職業は？（当院以外）



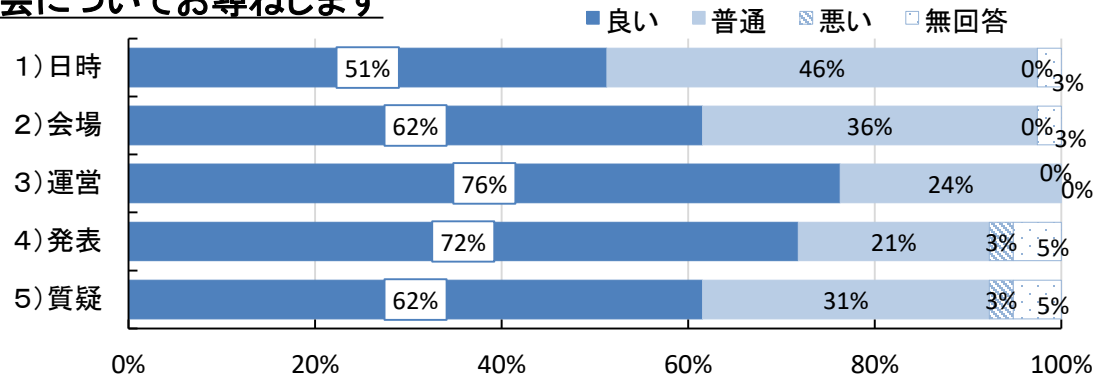
n=17

発表大会に参加して良かったと思いますか？



n=39

発表大会についてお尋ねします



良かったと思うチームは？　（最大3チーム選択）

	院内	院外	内外合計
1位	薬剤科・内科	事務部	事務部
2位	事務部	放射線科	薬剤科・内科
3位	放射線科	情報発信プロジェクト	放射線科

MQI発表大会の感想（一部抜粋）

【当院職員】
・結局、現場に浸透していない。医師も受け入れ態勢を整えるべき。高齢者がHPを見ると思いますか？
・今回のテーマに沿った内容で活動できたチームが少なかったように思う。（現状できていなければならないことが多かった）
・院内で業務をよりよくするためにこれだけ多くの職員が動いていることがわかって、自分も何か頑張らなくてはと改めて思う機会を作ってもらえたこと。
・いろいろ考えさせられることがあった。
・良い意味でも悪い意味でも、参加してよかったと思います。発表を聞かなければ、本年のMQIはどの部署が何をしていたかわからなかったからです。ほぼ毎年MQI発表会に参加していますが、今年ほど発表会でのみ聞くことができたこと、情報が多かったことはありません。情報は自分から取りにいかなければならないのはわかっていますが、いつものようにコメディックスもみみよりも目を通していたはずなのに、今年は何か違いました。発表会そのものは大変質疑、意見が多く、よかったと思います。
・初参加でしたが、有意義な話を聞けてよかった。

【当院以外】
・当院での活動をする上で、参考になる内容が大変あり、とても勉強になりました。
・発表内容もさることながら、質疑の多さ、活発さに驚きました。院内全体での取組が伝わる発表会でした。
・改善する姿勢と工夫がよかった。
・すばらしい取り組みだと思いました。
・全チーム、「練馬総合病院」をよくしようと常に「考える」姿勢が素晴らしいと感じました。

今後MQI活動を継続的に実施していくために必要な配慮や工夫（一部抜粋）

【当院職員】
・練総愛、はぐくんでください。上だけが満足しているようでは困る。
・実際に活動に関わる職員は内容を把握できていると思うが、全職員が実施できてはいないように感じる。
・活動期間が短く、発表大会のためのMQIになってしまっている感じが否めない。2年に1回とかにして活動期間を長めに設定してはどうか。効果とかもっとデータがおもしろくなると思う。（複数回答あり）
・看護部のチーム編成やテーマ選定についての見直しが必要。
・以前のMQIが継続しているか、さらに活動を進めた内容を活動とする発表があるとよい（複数回答あり）
・美原先生もおっしゃっていましたが、各職員が問題を見つけていくことだと思います。問題が見つかれば、それを改善しようとするので。
・聴く側が興味深い題材であること。
・あまりにチームリーダーにプレッシャーをかけすぎないように配慮してほしいと思います。

【当院以外】
・意識しないとならないルールがたくさんあると、素人目に見ると大変に感じる。意識せずともできるレベルに早くなるような工夫をされているんだと思い、感心しています。
・小さなことでも疑問を持つことがスタートだと思う。
・コストや残業の削減。
・頑張って取り組まれた職員の方々をねぎらっていただければと思います。

その他のご意見（一部抜粋）

※青字：推進委員会よりコメント

【当院職員】
・参加率が悪い。参加チームとメンバー以外の職員が来ていないように見える。QRバーコードでやっている意味はあるのでしょうか？　※出席確認をしています。上記に出席率を公開しました
・こんなことで満足しているようでは改善しない。1歩1歩が具体的ではない。もっと他病院との比較も必要。
・すばらしい大会でした。推進委員の皆様のおかげでもあると思います。ありがとうございました。
・採点方法を減点でなく加点方式にした方が良い。　※今年度は提出遅れによる減点はありませんでした

【当院以外】
・御施設のインシデント上位のものに対して、どのように対策をとられたかということも聞きたい。
・働き方改革に対する取り組み（質向上に資するもの）をテーマにしても面白いのではないでしょうか？

推進委員会では、いただいたご意見・ご感想を今後の活動に役立てていきます
ご協力ありがとうございました！！